

会員のば

精神科でのスポーツの仕事 その2

札幌市医師会
石金病院

井上誠士郎

本誌2011年5月号に続き、精神科におけるスポーツの取り組みを紹介させていただきます。今回は主に、精神的問題を生じたアスリートへの治療的介入のお話でした。いわば「精神科スポーツドクター」の仕事です。

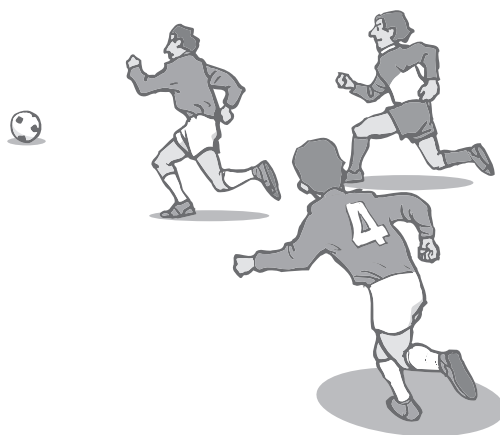
今回は、精神科における障害者スポーツの紹介です。身体障害者のスポーツ、例えばパラリンピック、車椅子バスケットなどは、一般の方々にもなじみがあると思います。しかし、精神障害者が公の場でスポーツを行う姿を見たことがある方は、極めて少ないと思います。なぜでしょうか。それは、自発性や意欲が損なわれ、不安・緊張が強くなりがちな精神障害の性質と、「精神疾患は恥ずかしい、何をするか分からない人々」という社会通念がいまだ根強いいため、精神障害者が公の場で活動しづらいという社会背景があるからです。

ところが日本の精神障害者スポーツは、大きな変革の時期を迎えております。その中心はフットサルです。2006年に大阪で始まった活動を皮切りに、2007年頃から全国各地に精神障害者チームができ始め、地域ごとに大会も開かれるようになりました。各地の活動の特徴として、Jリーグのチームが、地域貢献活動の一環として大会開催や技術指導などを強気にバックアップしていることが挙げられます。と

りわけ、ガンバ大阪、横浜FC、浦和レッズ、愛媛FCなどのチームからは、精神障害への高い関心と協力を得ているようです。2011年3月には、精神障害者の日本代表が世界で初めて海外遠征（ローマ）を行いました。

北海道では、2009年5月以来、石金病院が中心となり普及・振興に取り組んでいます。月1回の多施設交流会「フレンドリーマッチISHIKANE」には、常時5～7チームが参加しています。チームが続々と増えるため、場所の確保や資金など、苦しくも嬉しい悲鳴が上がっています。

毎年6月には、コンサドーレ札幌の協力のもと、「北海道チャンピオンズカップ」という全道大会を開催しています。第2回の今年は8チームが参加。帯広のアユターレFCが優勝しました。札幌大学の皆様に運営のご協力をいただき、バリアフリーな交流を行っています。1) 当事者のQOLの向上、2) 精神障害に対する理解の促進、3) 当事者支援のネットワークの拡大、という点で、実り多い活動になっています。どんな形でも結構ですのご協力いただける方、一緒にプレーしたい方、当院までご連絡ください。



コンサドーレ札幌プレゼンツ第2回北海道チャンピオンズカップ

前十字靱帯損傷顛末記

羊蹄医師会

J A 北海道厚生連倶知安厚生病院

矢崎 弘志

昨年春、雪深い倶知安町にやってきた。町の周辺は二セコとしてスキーが有名で、院内にもさまざまな部活動があるが、私の好きなサッカー部の活動は数年前から停止状態とのことであった。赴任時の私のミッションは、サッカー部を復活させることだ(と勝手に心に決めた)。それから、何かの用事で院内の各部署を回ると、運動の好きそうな人に声をかけたところ、サッカー(11人)は無理だが、フットサル(5人)のチームは作れそうな感触を得た。活動場所は院内の体育館である、生活療法センター、通称「生療センター」である。

しばらく活動が続けると、職場の上司が参加してくれた。コンサドーレの熱烈なサポーターであるその上司は、数年ぶりのフットサルに、青春の日を思い出したかのように躍動していた。と、そのとき「バン(と聞こえたそう)」という音とともに、無念のアキレス腱断裂を起こし、手術となった。その後、ロコミで救急隊員にも活動が広がり、救急搬送などの仕事の面でもコミュニケーション形成に大いに役に立った。一方では無理がたたリ、自分自身、頻繁に捻挫や筋肉痛(肉離れ)を起こすようになった。それでも、だましだましやっていると、ついにその日がやって来た。

昨年末の仕事納めの日、フットサルも納めよ、とばかりに張り切ってやっていると、ぐにゃっと右膝が内側に折れてしまったのである。前々から痛めていた前十字靱帯がついに切れてしまったようだ。年が明け、仕事始めの日、整形外科を受診。MRI撮影し確定診断となった一前十字靱帯断裂。しかし、幸いなことに、当院の整形外科と医局との関係で大学から第一人者の先生が来られ、再建術をしていただけのこととなった。術後はスポーツ復帰まで9ヵ月かかるとのことだったが、既にシーズン前にスキーを購入していたので、どうしてもそれを使いたかったので、手術の前日、同僚とヒラフにナイタースキーに行ったこともよい？思い出となっている。

金曜日の午前外来終了後入院となり、そのまま手術が行われた。生まれて初めての手術(腰椎麻酔)は、術直後下半身だけ感覚がなく、透明人間になったようで、何とも不思議な感じであった。その後の痛みとリハビリは大変なものだったが、徐々に改善してきている。最近は、筋力増強のためロードバイクを購入し、主に当直明けの午後を利用し、羊蹄山一周や二セコパノラマラインなどを巡っている。肝

心のフットサルチームは私がいなくても順調に活動が続いているようだ。フットサル復帰の日が待ち遠しい今日この頃である。

患者さんとの接し方

江別医師会

江別市立病院

若林 崇雄

内科医として働き始めて7年が過ぎた。志を同じくする同僚や気持ち良いスタッフに恵まれ、楽しく仕事している。同時に7年経過しながら、人間というものの面白さを日々実感している。毎日違う患者さんにふれあい、毎日違う刺激をもらう。それが面白い。

先日、亡くなった米原万里のエッセイを読んでいたら、面白いロシアの小話(アネクドット)を見つけた。あるアル中の男に医者が声をかける。「もう少し酒を控えれば人生が長くなるよ」。するとその男が我が意を得たりという表情で言う、「そうなんだよ、先生。この前1日飲めなかったが、その1日は長くて長くて…」。

まあ、笑い話なのだが、ロシアに限らずよくある(?)光景ではある。こんなところに出くわせば、自分ならばどのように返答するだろう?つい考えてしまった。

消化器の専門医は断酒を厳しく申し渡すとともに、肝硬変や合併症をエコーや内視鏡を使って評価しようとするかもしれない。循環器の専門医はほかにACSのリスクがないか問診するかもしれない。じゃあ、僕は何かから始めようか。

僕は総合内科医である。プライマリ・ケアを志し、地域医療に携わりたいと考えている。いわば地域の人と医療の接点となることを目指している。それはつまり、地域で患者と触れ合う最前線を目指すということでもある。

いろんな人がいて社会だと思う。毎日、病棟、外来かかわらずたくさんの患者さんと接してきて、必ずしも恵まれた人々ばかりではないし、豊かな人ばかりでもないことが分かってきた。世の中は不平等で裏と表があることも分かってきた。

それでもみんな生きていることが素晴らしいと思う。人はいろんな事情を背負いながら、それでも笑って生きていることに純粋に敬意を表したいと思う。

結局、僕はこのように答えるだろう。「そうですか、そうですね、酒は楽しく飲まなくちゃね」。僕は相手を認めることから始めたいと思う。健康、リスク、メタボリック。そういうものは二の次でいい。

まず人と人との付き合いから始まる、そのことを常に胸の中に納めておきたいと願っている。

いろんな人がいて飽きない。この職業に就いて本当によかったと思う。

北大病院産科と 臨床遺伝子診療部における 遺伝カウンセリング

北海道大学医師会

山田 崇弘

現代の社会では遺伝情報を用いた医療だけでなく、一般生活においてもさまざまな遺伝に関する問題が発生します。こういった社会における、遺伝にかかわる問題すべてに対応してゆくのが遺伝カウンセリングです。これは「ある家系の遺伝疾患の発症や発症のリスクに関連した人間の問題を扱うコミュニケーションの過程である」と定義され、一方的な医学情報の伝達ではなく相互方向のコミュニケーションプロセスであり、訓練を受けた担当者がクライアントに対する援助を行うものです。

北大病院では遺伝カウンセリングに力を入れており、臨床遺伝子診療部とそれを構成する神経内科、小児科、耳鼻科、産科などに所属する日本人類遺伝学会・日本遺伝カウンセリング学会が定める臨床遺伝専門医（6名）、認定遺伝カウンセラー（1名）、臨床遺伝研修医（1名）が活躍しております。

この度、「会員のひろば」の原稿依頼が届いたので、臨床遺伝子診療部を構成する診療科の一つである、産科の遺伝カウンセリングをご紹介します。

北大病院産科では2007年1月に週1回の遺伝・出生前診断外来を開設し、遺伝カウンセリングを行っておりますが、年々受診される方が増えております。さまざまな遺伝にかかわるご相談や、出生前の染色体あるいは遺伝子診断を考慮されている方のご相談に対し、臨床遺伝専門医が十分時間をかけて対応しています。遺伝性疾患にかかわるご相談では、必要に応じてその疾患に関係する専門医と連携をとり、臨床遺伝子診療部として対応いたします。カウンセリングの後に、患者様の遺伝子診断だけではなく発症前診断、保因者診断などを行うこともあります。また、具体的な遺伝性疾患に関する相談だけでなく、いとこ同士の結婚に関する相談など、社会生活上の問題や、漠然とした不安などに対する相談などにも対応しております。

出生前診断では、特に慎重なカウンセリングを経た上で行っています。出生前診断にかかわる提供可能な選択肢としては、妊娠初期胎児超音波検査（妊

娠11週～13週）や母体血清マーカー（妊娠15週～）などの胎児が染色体異常を持つ確率を評価するものと、絨毛検査（妊娠12～13週）や羊水検査（妊娠15週～）などの胎児の染色体や遺伝子を実際に調べる侵襲的検査などがありますが、ただ選択肢を提示するのではなく、それぞれのクライアントにとっての意義を十分考慮したカウンセリングの中で提供してゆきます。さらに出生前遺伝子診断では、染色体検査での手続きに加えて臨床遺伝子診療部の討議を経て、倫理委員会の承認を得た上で行います。これまで数多くの重篤な疾患について行ってまいりました。

一つ一つのケースを大切にしながら、今後は遺伝教育や遺伝カウンセリングを扱うことのできる臨床遺伝専門医を養成するための機会も、積極的に提供してゆきたいと考えております。

父子水入らず

旭川医科大学医師会

唐崎 秀則

息子はハリーポッターのDVDを食い入るようにみている。まもなく米が炊きあがる。私は意を決して息子に声をかけた。「めしの支度をするぞ」。TVをみているときに声をかけてもひどく反応が鈍く妻の怒りを買うことが多い息子であるが、このときばかりはスムーズに動き、DVDを止めて野菜を洗いはじめた。上々な滑り出しである。

妻とは結婚以来、別居が続いている。

とはいっても「婚姻を継続しがたい重大な事由」に直面しているわけではない。妻は大学の同級生であり結婚以降も仕事を続け、息子が生まれてからは実家のある札幌で両親の助けを借りながら働いているわけだ。ご多分に漏れず新医師臨床研修制度のありを受け、私の職場も人手不足が著しく、まとまった休みがなかなかとれない。家族のもとへ帰るのは月に1回あるかないかの生活が数年続いている。

そんなわれわれにとって、夏休みは年に1回まとまった時間を一緒に過ごす貴重な一週間である。私は「夏休み」ではなく、ひそかに「夏合宿」と呼んでいる。この夏合宿だが、息子が小学生になってからは、キャンプと温泉宿への宿泊を織り交ぜながら過ごすのが恒例となっている。今年の夏合宿のメインイベントは朱鞠内湖でのキャンプ2泊で、息子は魚（といっても小型のウグイだが）を数匹釣ってご満悦であった。

今年の夏合宿は、旭川の私の家が最終泊となっている。しかしこの夜、妻は不在になる。久しぶりに

大学の同級生たちと食事会(飲み会)に行くのだ。17時頃、息子と一緒に妻を街まで送っていった。食事会のメンバーから察するに、帰宅が午前になることは間違いない。妻曰く、息子は私と二人きりになることに緊張しているらしい。思えばこれほど長時間を息子と二人で過ごすのは初めてのことだ。正直、私も若干の緊張を隠せない。いよいよ息子と二人きりの数時間(短くて7時間、おそらく9時間近くになると思われる)が始まった。帰りにはスーパーで食材と、息子の希望でハリーポッターのDVDを購入した。

ここで冒頭のシーンに戻る。

息子が私のほぼ唯一のレパートリーである肉野菜炒めを食べ始めた。日頃、食事のTVは彼には許されていない。TVに気をとられて食事が全く進まなくなるからだが、今日ばかりは息子のたつての願いでハリーポッターをみながらの食事である。ただし食事が止まるようならば、即座に電源を切る約束になっている。一抹の不安はあったがそれも杞憂に終わり、私はビール、息子はコーラをのみ、ハリーポッターの活躍を中断させることなく食事を終えた。「ごはん中にTVをみながらコーラを飲めるなんて夢のようだ」との息子の一言は、今年の夏合宿一番の思い出となった。父親がやりがちなズルではあるが、妻も許してくれるだろう。

父子水入らずの時間は、予想通り9時間を超えたころ無事終了した。

どうなる北見の「玉葱列車」

北見医師会

オホーツク勤医協北見病院

武田 雄太

私の住む北見市は人口約12万5千、オホーツク管内最大の都市で、5年前の広域合併で市としては北海道内最大の面積を有するに至った。広大な耕地を持つ北海道が生産量全国1位となる産物は多いが玉葱もその一つであり、全道生産量のうち約3割がこの北見市周辺で収穫され、出荷量で全国一を誇っている。

このような事情から北見にはオニオンスープやふりかけ、調味料、最近ではオホーツク北見塩やきそばと玉葱を使用した商品も多い。また収穫から出荷の時期が近づくと、毎年きまって季節労働へ声がかかる市民も多く、7月の終わり頃から検診のために外来を受診される方が増えてくる。これらの人々は夏の終わりから秋にかけて農場で収穫、また選果場での選別に休む間もなく働く。仕分けされた玉葱は市内や近郊にある倉庫に保管され順次出荷されてゆ

く。在庫がなくなるのは年が明けた4月となるのだから、その量の多さに驚くばかりである。

そんな膨大な量の北見産玉葱、どのように大都市圏の消費地へ運ばれているのであろうか。きたみらい農協管内(北見市、訓子府町、置戸町)での玉葱生産量は約22万トン(2009年)、そのうち7割は馬鈴薯や砂糖、乳製品とともに鉄道コンテナに積み込まれて貨物列車で運ばれてゆく。この「玉葱列車」、例年8月のお盆前から翌年4月末までの8ヵ月間、北見から旭川の貨物駅までの石北本線約180kmをほとんど毎日運転される。野生動物との衝突や落ち葉や雪で動輪が空転して列車が止まってしまうこともある常紋峠と北見峠の2つの難所を越えるため、「玉葱列車」は貨車の前後をディーゼル機関車で挟んで牽引する全国でもここだけの運行方式を採用している。原生林の広がる日本離れした景観の中を走る「玉葱列車」を追って、運行シーズンの沿線には全国から鉄道ファンが駆けつけるほどである。

「玉葱列車」一日3往復の体制は昨年4月まで続いていた。しかし採算が悪くなってきたことと、貨物列車を牽引するディーゼル機関車自体が老朽化してきたことから昨年度は一日2往復へ減便され、今年度は一日1往復とさらに減り、今年度の運行が終わる2012年4月での廃止が現実味を帯びてきた。一列車(貨車10~11両)でコンテナは50~55個運べるだけに「玉葱列車」廃止後、道路状態の悪い冬期間を含むシーズン中をトラック輸送で安定した輸送体制が確保できるのか懸念されるところである。

追記。9月15日付の北海道新聞報道で、2012年度以降2年間の運行継続がなされることが明らかになった。



出発線へ移動する

世界の三聖人 君子“孔子”について

小樽市医師会
三ツ山病院

本間 勉

1. 世界三聖人

「キリスト・釈迦・孔子」

2. 孔子は“儒教”の祖であり、著書“論語”で有名な思想家として東洋文化に多大な影響を与えた人物であるが、実像には不明の点も多々あるらしい。

3. 孔子は本名“孔丘”字は“仲尼”。周王朝の封建制度が崩壊した春秋時代（紀元前770～前403年）の551年に山東省曲阜（魯の都）で誕生した（魯の国は周の開祖“武王”の弟“公旦”が開祖である）。

4. 孔子家は殷王家の血統で名家系出身である。
孔子は魯の諸侯（李氏）に仕え“儀礼”の専門家として名声を高めた。34歳で周に遊学し、思想家で有名な“老子”の教えを受けてますます向上している。

帰国後、魯の君主“昭公”とその弟“定公”君主にも仕えたのである。

5. 出世する孔子

魯の定公代に“郡の宰（長官）”に任命されてからは、司空（司法官）、大司寇（司法長官）や“宰相代行”まで昇進を重ねている。

6. 55歳で諸国漫遊する。

魯を辞し14年間諸国を旅して理想の君主を求めたが、失意のまま魯に帰国し、68歳から73歳で死去するまで5年間、弟子の教育に専念した。

7. 「論語」

この5年間の孔子の教えを、死後300年後に弟子たちがまとめた書物が「論語」となり、中国のみならず朝鮮・日本等の各国に伝え、多大な影響を与えた（10巻20編の書文）。

8. 孔子出自の謎

祖先は殷王族末裔で“宋”の公族でもあり、魯国に亡命した没落士族の子孫ともいわれている。

元代歴史書「十八史略」に、祖先の“正考父”は宋の宰相・大臣を務めているし、その3代前の“佛父何”は宋の国を継ぐ立場で弟に譲ったという（史記）。孔子の父“叔梁紇”65歳は“顔家”の娘“徴在”18歳と結婚し、その母は孔子17歳のときに没しているが、不倫関係中で生まれた私生児が孔子であるといわれていた（“孔家”から認知されて跡取りになっているのに…）。また、母が昼寝の夢の中で、皇帝使者が天から降りて母と交わり“神の子・孔子”が生まれたともいう。

青年期の孔子は魯の“李氏”に仕えた役人であ

るが、“委吏”（倉庫係）という下級官吏で苦しい生活だったらしい。魯の重臣の宴に行くと“お前等の来る所ではない”と追い帰され、“野合の子”として白眼視されていたという。

9. 魯国追放

“孔子断行の政治改革”は、魯の君主定公の権力を脅かす“三桓”（大夫）季孫・叔孫・孟孫の各氏族の勢力を抑え切れず頓挫して、“定公”の信頼を失い三桓に魯から追放されたのである。

門人の縁故を頼って、13年間も諸国の君主に“王朝儀礼の知識”を売り込んだが相手にされず、68歳の高齢になって魯に帰国したのである。

10. 儒教

孔子を始祖とする宗教哲学で、孔子死去340年後の紀元前136年に国教になった。京南アジアまで広く尊敬され、孔子は聖人としてあがめられ、歴代皇帝は神秘的予言者・宗教家・哲学者として各地に“孔子廟”を創建し、その高弟までも祀り続けたという。

儒教は身分の上下を厳しく説く封建倫理で、階級制度を漢の武帝が国教と定めて以来、二千年以上も中国社会で継続された。“老いては子に従え”という“女の三従”は日本にも封建道徳として長く守られてきた。



日本の歴史学者の多くは、“儒教”も“論語”も“宗教ではない”“沈黙の宗教”であると言っている。すなわち孔子は宗教家ではなく、思想家・教育者・現実主義者にほかならない。その理由は、孔子は“死生観”を語らないからという。高弟の“子路”が死について孔子に尋ねると、「未だ生を知らず、いぞくんぞ死を知らんや」と言ったという。死生観や不死・老化・寿命等の問題は、全く取り上げなかったらしい。

77人の弟子の教育には「四教」(文・行・忠・信)を使用しているのである。



◀王族出身という定説が見直されている孔子。その容姿にも諸説あり、頭の頂が大きくくぼんでいた、身の丈は9尺6寸（約191センチ）あったなどともいわれている。



◀ 儒教を国教とした漢の武帝。前漢の7代皇帝で、外征によって匈奴を破り、その版図を前漢最大にまで広げた。

▶ 南京の孔子廟に立つ孔子の銅像。孔子は漢代にすでに神格化されており、その伝承のちに朝鮮や日本に伝わったといわれている。



◀ 孔子の生誕地と伝えられる尼丘山麓にある「夫子洞」。この洞窟の中で孔子は生まれたといわれる。



◀ 曲阜の孔林（孔子と高弟の墓所）にある孔子の墓。孔子の死後、弟子の子貢は、この墓のかたわらで3年の喪に服したという（写真：藤井勝彦）。

11. 儒教の日本伝来

3世紀前半に伝来し、日本古来の“神道”の倫理観に保管されて発達し、“独特の天皇観”に加味されて成立した。

奈良時代には神仏2教と合体した儒教が、律令国家のイデオロギーにもなったらしい。平安時代には“摂関代”に入って儒教は衰退したが、江戸前期に儒学者“林羅山”等の推選で徳川家康が儒教一派の“朱子学”を官学に導入して復活した。その後、日本独自の発展変容を見せながら、幕末の“尊王攘夷論”となり“皇国史観”にも絶大な影響を与えた。

12. 孔子の野望

中国で“聖人”とは自然に推戴されて“帝王”になる人物をいった。孔子は自分の才能・能力を認めて欲しいと悲痛に叫び続けた野望の70数年であつたので、周王朝に代わって新王朝の樹立を夢見ていたし、公山での魯国反乱で皇帝に招こうと声を掛けると、周王朝をこの魯に再興してみせると意気込んだという。

文献 日本歴史研究 その他2～3の文書

ユジノサハリンスクへの旅

札幌医科大学医師会

浦澤 正三

新聞記事を見て思い立つ

本年5月24日の新聞を読んでいて、某観光会社が「ビザなしのサハリン72時間ツアー」を計画していて、今からでも参加可能との記事を見て興味を持った。「ビザなし」が気に入った。

授業の中で「天皇」という語を口にする際には、「畏くも天皇陛下におかせられましては」と声を大にし突然両脚を合わせて気をつけの姿勢をとる先生に、はっと生徒一同、位を正した軍国主義教育の中で育った国民学校（小学校）時代、その4年生の夏に敗戦の日を迎えた。この日を境に、周囲の環境は低く垂れ込めていた雨雲の天井が抜け、明るい光が差し込んだような解放感に変わったが、子供心に入学以来の教育によって心底深く植えつけられた敵国米、終戦間際に宣戦布告したソ連（ロシア）への反感は容易には消えなかった。

ロシアについては、1968年に第1回国際ウイルス学会がフィンランド（ヘルシンキ）で開催された折に、途中モスクワ、サンクトペテルブルグ（当時のレニングラード）の両市を訪れたことがあるが、上記のこともあって、終戦時までわが国の領土であった南サハリン（樺太）にビザをとってまで、のこのこと出かけて行く気にはなれなかった。しかし、父が旧樺太庁の官吏であったため豊原（現ユジノサハリンスク）市に生まれ、終戦の翌日身ひとつで母親、兄、妹と共に本土に引き揚げてきた妻（价子）が、近年とみに生まれ故郷への郷愁を募らせているのを見るにつけ、一度訪ねてみようかと思い始めていた矢先のこと、上記の新聞記事を見て直ちにツアー参加の手続きをとった。

ユジノサハリンスクへ

前日の6月7日、妻、姪を伴い長距離バスに約6時間揺られ、稚内に着き一泊。73名のツアー参加者一行は、翌日朝8時30分に稚内港国際旅客ターミナルに集合。出国手続きの後、10時発のフェリーで稚内港を出航した。昔の青函連絡船の2等船室（棧敷席）のように仕切られた場所に毛布を敷いて三々五々横になり、昼食（弁当）を含む約5時間半の船旅の後、現地時間17時30分コルサコフ（旧大泊）港着。入国手続きに2時間近くを要した後、2台のバスに分乗しユジノサハリンスク（旧豊原）へ向かった。細身で色白、ショートヘアーの後ろを刈り上げたにしたノーブルな感じのロシア人中年女性ベスタさんによる、日本統治時代、ソ連邦時代から近年までのサハ

リンのごく簡単な紹介を耳にしながら、約50分後にパシフィックプラザホテルに到着、夕食、就寝。

市内観光

翌8日は朝から曇天、時に小雨降る中をバスにてユジノサハリンスク市内を見物した。勝利広場、樺太神社跡、終戦記念碑、ガガーリン広場、ロシア正教会堂、自由市場、レーニン広場、鉄道博物館、展望台（霧に閉ざされ視界ゼロ、市街は全く見えず残念）、ガガーリンホテルの昼食、土産物店、スーパーマーケットと回って3時半頃ホテルに帰着した。勝利広場、レーニン広場の像など記念碑の建造物には戦後ロシアの国威発揚の姿を見、自由市場、スーパーマーケットでは庶民の活気、オホーツクの水産資源の豊かさを感じたが、樺太神社跡地を除き、多くはロシア人観光客によりふさわしいと思われるお決まりの観光スポットであった。3時半以後の時間は自由行動となった。

さて、ユジノサハリンスク市の現人口は観光案内によると約18万人とのこと。日本統治時代（1905～1945年）に札幌市に似せて造られた道路は広く直角に交差している。主要路のいくつかは旧豊原時代のままで、文献¹⁾によれば90以上の建物（またはその部分）が残存するとのこと。ただ、この地で9歳の夏までを過ごした妻にとっては、いくつかの広い大きな道路の印象は記憶のままであったらしいが、なにぶん建物を含む周辺の環境は全く変わっており、住んでいた樺太庁官舎の場所も見当がつかないようであった。

日本統治時代の建物

残された建築物のうち代表的なものは、午前中のバスツアーで訪れた樺太神社跡地と、午後の自由時間に歩いて見学した旧拓殖銀行豊原支店と旧樺太庁博物館である。

かつての樺太神社は、豊原（現ユジノサハリンスク）駅前から広い神社通り（現共産党通り）を直進し、市街を離れて鳥居をくぐり、登りの参道を辿って、最後の石段を登ると小高い山腹の社殿前に出たと思われる。午前中のバスツアーにおける説明でも、ロシア人ガイドは、市街地のはずれの鳥居を前景に神社へと続く旧参道を写した古い拡大写真を見せてくれた。しかし今この鳥居は既にない。山に向かう旧参道も一部道路として残ってはいるが、社殿近くでは参道と思しき場所に白い壁の洋館風の建物が立ちふさがっていて、正しくその道筋を辿ることができない。最後の石段は残っていたが、肝心の神社の本殿部分も壊されて既に無く空き地となっており、かつての神社跡の証は上記の石段と本殿跡空き地奥に位置した校倉造りに似せた神社宝物殿のみであった。がっちりしたコンクリート造りのため壊されな残ったらしいこの宝物殿をバックに記念写真を撮った。

旧拓殖銀行豊原支店の建物は、駅前のレーニン広

場に近い一等地で二つの道路の交わる角地に建てられ、二つの玄関の両側には飾りの石柱を配した、いかにも銀行らしく重厚、格式ある二階建て石造建築である。現在はサハリン州立美術館として利用されている。たまたま訪ねた折は館内の一部で子どもの絵の展覧会を開催中で、母親に連れられた子ども達が三々五々訪れていた。館内を案内してもらい、回廊状に廻る吹き抜けの二階廊下から見下ろした一階部分の広いスペースは、角地を生かして「くの字～半円形状」に張り出した接客カウンターとその内側で働く行員たちの様子を写した古い写真（今回の旅行前に見た）を彷彿とさせるものであった。

共産党通りに面し駅から徒歩約15分の旧樺太庁博物館の建物は、外見的に2.5階建てのコンクリート建築の上に和風の天守閣構造を乗せたような美しい日本の建築で、当時の姿ほぼそのままに現在も州立郷土博物館として使用されていた。玄関前の広い庭には噴水のある小さな池があり、妻は当時この庭とミズスマシのいたこの池で妹たちとよく遊んだものと懐かしがっていた。

博物館の展示物は日本統治終了（1945年）の前後に分類され、サハリン開拓時代以来の歴史、経済、文化と広範にわたり、開墾に用いた農機具、訪問したロシア皇帝らしき人物の写真（ロシア語の説明のみで詳細不明）、樺太アイヌ民族のよろい、日本人商店のにぎやかな開店記念写真、南北樺太（旧日露国境）を示す標石などなど興味深いものが多い。ガイドブックによると旧樺太庁博物館以来の展示物も多数に上るといえるが、日本人などの外国人観光客が理解できる説明文がほしい。

博物館前庭の池の傍らで記念の写真を撮る。

「池の面に 幼き妻の 影揺れて」。

5時30分ホテル帰着、ホテルレストランで夕食、就寝。

ガイドのベスタさん

翌朝は早起きし、朝食もそこそこに帰国の途についた。コルサコフへのバスの中でベスタさんは、ダーチャ（自家菜園付週末小住宅）での生活の楽しみ、通過する土地土地の日本統治時代の産業などについて語ったが、私は発音明瞭なれど時にやや意味不明な、ベスタさんの日本語の自然なユーモアを楽しんだ。「ロシアでは6月は未だ夏ではない、8月はもう夏ではない、といいます。夏は長くない、ロシアでは色が白い、黒いのは裕福。夏はないのですかと聞かれ、ありましたが働いていました、と言いました。これは冗談です」には初めエッ？そしてナルホド。「ここは貝塚村といました、毛皮飼育場でした、上質のミンクが採れました」にニヤリ。乗客の「ロシアでは土地を個人が所有することはできますか」との問いに「土地は買えますが、国はズルくて、その後も毎年お金を取っています」とはどういうこと？

最後の挨拶は「心から愛する日本の皆さんによりしく」とのことだった。サハリンへのビザなしツアー第1回目ということもあってか、2時間近くを要した出国手続にも最後まで付き合い、終始誠実な人柄の感ぜられるガイド振りであった。

遠く遥かな道

帰りは朝7時半（日本時間9時半）にホテルを出発し、バス（コルサコフへ）→出国手続き→フェリー（稚内へ）→バス（札幌へ）と往路を逆に辿り、市内バスセンター到着は午後10時15分であった。

今でさえ札幌まで13時間にも及ぶこの同じ長い道のりを、敗戦翌日からの暑い夏の日中、父親を残し家族一同すきっ腹をかかえながら、船底の部屋と無蓋の貨車に詰め込まれ、用便もままならず、本州は東北まで引き揚げたとは、もうよく覚えていないと本人は言うが、なんと大変な旅であったことだろう。日本人の引き揚げた旧豊原から現ユジノサハリ

ンスクへ歳月も流れて66年、わずかの建物が残されたとはいえ、町並みはかつての姿を留めない。日本人の生活したその跡に、今はロシア人の平和な生活がある。

積年の思いを果たした今の妻の気持ちを推し量る。「遥かなり かの豊原は 夢のなか」。

一方で、北海道に住むわれわれに切実な北方四島の問題が残されていることを思う。これらの島々にもそこに生まれ育った66年のロシア人の生活があり、これは取りも直さず高齢となった島々からの引揚者とその家族にとっては帰還への当然の権利が奪われた望郷の日々でもある。もはや放置は許されないのではないか。

参考文献

- 1) 井潤 裕、角 幸博：ユジノサハリンスクにおける日本期歴史建造物調査、日本建築学会計画系論文集、第571号、2003年9月

電子メールによる会員への情報提供について

—メールアドレスの登録—

◇情報広報部◇

本会では、インターネットを利用し、電子メールにより緊急性の高い情報を、会員の皆様へ送信提供しております。対象は当会の電子メールアドレス利用者全員と他プロバイダの電子メールアドレスをお持ちになっていて、本会にアドレスを登録している会員です。

他プロバイダの電子メールアドレスの登録につきましては、随時受け付けておりますので、是非ご登録いただきたくご案内いたします。

●電子メールアドレスの登録方法

電子メールで、ご氏名、登録メールアドレスを明記のうえ、下記宛お送りください。

・申込先メールアドレス：add@m.doui.jp